
苦しくて、愛しくて。番外編

久遠 夜。

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

苦しくて、愛しくて。番外編

【Nコード】

N6818T

【作者名】

久遠 夜。

【あらすじ】

苦しくて、愛しくて。過去編になります。

彼らはどうして、関係を始めたのか…？

注意：これは、とあるサイトで掲載していたものの修正版になります。

共有者　ーユキー（前書き）

これには、本編が存在します。
が、読まなくても大丈夫な気がします。

共有者　ーユキー

私が告白した時から、
私と貴方は共有者になった。

ペラ、ペラ。

トモこと遠野智夜^{とおのともや}は、ルネ・デカルト著の『方法序論』を読みながら、私ユキこと一ノ宮雪那^{いちのみやせつな}の部屋にいた。

「トモ。私、兄さんのことが好きなの」

「ああ、そうだな」

人生で最大級の秘密を告げたはずなのに、全く奴の表情も態度も変わらなかった。

しかも、視線は本から外れず、読書を続けていた。

「……………」

あまりの態度に、言葉も咄嗟に出てこず思考は真っ白になった。
だが、次に沸くのは怒りの感情だ。

「ちよつと！私今人生最大級の告白をしたのよ？！妹としての好意なんかじゃない、私は女として好きなの！！もっと反応しろってのよ！」

お気に入りの水色のクッションを、思いつ切りトモに投げてやったが、トモはそれを事も無げに避けた。

「ちゃんと見てないのに。」

やっと、トモは本から顔を上げ、私に視線を合わせる。

「何を今さら。俺が気付かなかつたとしても？」

「あああああつ、

何で！どうして？何故！」

「それ、ほぼ一緒の意味だろ。まっ、答えるが俺だから。」

きっぱり、すっぱり言い切られた。

一瞬、声にならない。

「何で、何で……！さっぱり根拠が無いのに納得出来ちゃうの？私……！」

そんないい加減な理由で納得してしまう自分が嫌になった。しかし、納得させてしまうのが彼という存在なのだ。

「そんなに興奮して疲れないか？」

私の何かが切れる音がした。堪忍袋とかそんなものが。

「あんたのそのテンションのせいでしょ！？」

叫び過ぎて息切れがする。

「まあ、落ち付け」

どう、どう、

と私の背中をトモが撫でる。

絶妙な力加減でもって。

こういう態勢になったトモは反則的に優しくて、私を駄目にする程甘やかす。

「……っひっく」

ポタポタと今までせき止めていた涙が決壊する。

「俺が悪かった。ちよつと意地悪したかったんだ。もっと早くに打ち明けてくれるって思ってたし」

拗ねたような声が頭の上から聞こえ、私の頬にトモの胸が触れた。抱き込まれたのだと一瞬遅れて気がついた。

頭をひんやりとした手が撫で、涙は自然と止まる。

「お前好きだよな、こうされるの」
頷くことで返事を返す。

「そう、好き。大好き。」

「正しくは、月彦さんに撫でられるのが、な？」
躊躇いながら顔を上げる。

智夜の表情は何処までも透明に澄んでいる。
そこには、嫌悪も憐憫も宿ってなどいない。

「ユキ、お前は何を望む？何を願う？何でも叶えてやるよ。
俺の願いはお前の幸せだから」

この声を、この手をとることは正しい道なのか。
でも、もうとうに限界なのだ。

「トモ…っ、もう駄目なの。苦しいの寂しいの…。兄さんに彼女が
出来る度に消えてしまいたくなる。でも、今の関係を壊したくない
の。だから、耐えられるように嘘の愛でいいから、この寂しさを埋
めて。自分を、兄さんを偽る共犯者になって…！」

「嫌。」

間髪入れずに返事が返ってきた。

「嘘つき！何でもって言ったのに！」

「ちよっと、言えって言ったのトモでしょ？」

また、泣きそうになる。

「犯罪でも何でもないだろうが。誰かを想う行為が犯罪か？お前の
隠し事は罪でも何でもない。つかなきやいけない嘘をお前がお前自
身を赦してやれよ。」

俺は、何処までも付き合うよ
私を赦してくれるのはトモだ。

だから私は私を赦して良いんだって思えるんだよ。

「うーん、だからそうだな。」 共有者 “なんてどうだ？”

ふふん、と楽しげに笑う。

「トモ…っ！」

私はトモに思い切り抱きついた。

「後悔するぞ。きっと」

「それでも、もう堪えられない！」

トモが腕に力を込める。

二人とも同時に視線を合わせる。

吐息がふわりと重なった。

これが私たちの始まりの証。

この日から、私たちは”共有者“になった。

共有者　ーユキー（後書き）

トモ視点もあつたり。

でも、同じ場面つてくどいですかね？

感想などありましたら嬉しいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6818t/>

苦しくて、愛しくて。番外編

2011年10月8日20時06分発行